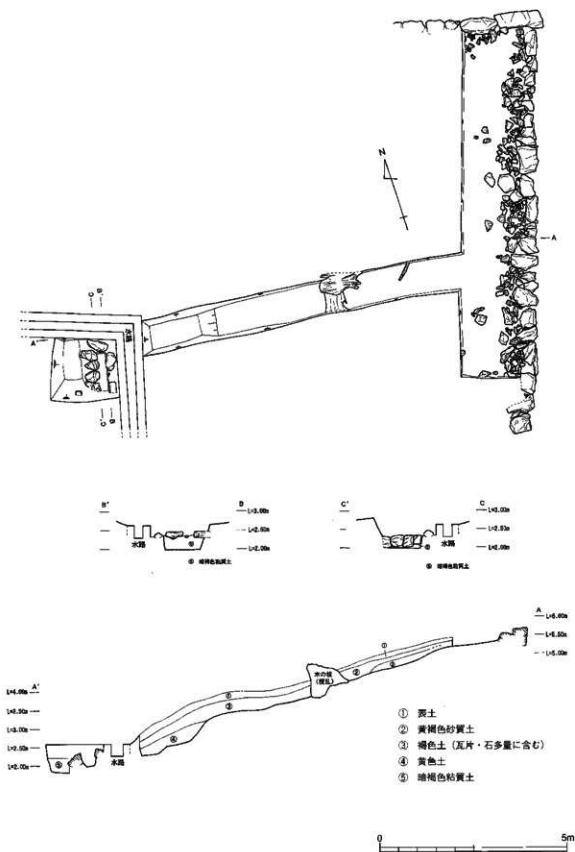


第147図 T-2調査成果図



第149図 T-4調査成果図



二之丸下ノ段東側堀石垣



石垣内法土層



T-1露石垣検出状況



T-1天端部分完掘状況



T-2天端部分完掘状況



T-2堀控え柱痕跡検出状況



T-2露石垣検出状況



T-3-1天端部分完掘状況



T-3-2腰石垣検出状況



T-3-2腰石垣近景



T-3-2水路部分近景



T-4天端部分完掘状況



T-4トレンチ全景



T-4水路検出状況

第5章 ま と め

石垣の崩落の直接的な原因は地震による振動であるが、その他の要因として、まず石垣内部の盛土の脆弱性が挙げられる。本石垣の盛土は軟弱で粘性も弱く、工事中にも雨に当たるとすぐ流れ、また崩落するものであった。このことが長い年月の間に地盤沈下や、石垣の変形などを引き起こす原因となったものと考えられる。

次に石組み自体の問題として、石積みの石材が小さいものが多く、控えの長さが不足している点が挙げられる。それぞれの石の控え長は1mを切るものが大半であり、このため学みやすい構造になっていると言える。

さらに基礎構造については、根石自体が不整形で安定感が無く、堀石垣のように地盤が軟弱な場所では胴木を用いて安定を図っているが、それも二之丸下ノ段南東角堀石垣や、城山東内堀石垣（宇賀橋南詰め）の例のように400年にも及ぶ長期間の間には腐朽してしまい、角石部に変形を来す原因になっている。一方地盤が硬い場所では、胴木は用いず、地山に直接根石を据えているが、水之手門跡周辺石垣でも見られたように、地山なりに据え置くなど、根石の固定にあまり配慮がなされていないため、根石が滑動を起こし易くなり、結果的に石垣の変形を引き起こす原因となっている。

今回の石垣修理は、おもに鳥取県西部地震に伴う災害復旧工事として実施したために、修理の対象は被災箇所を中心として必要最小限の範囲で実施したものである。このため、復旧した周辺でなお学みやすいなどの石垣の変形や石材の割れ、笠石の消失などが見られる箇所が見受けられることから、今後も年次的な計画を立てて継続して石垣修理に取り組む必要があるものと思われる。

報告書抄録

フリガナ	シセキマツエジョウウイシガキシユウリホウコクシヨ				
書名	史跡松江城石垣修理報告書				
副書名					
巻次					
シリーズ名	松江市文化財調査報告書				
シリーズ番号	第111集				
編集者名	飯塚康行、川上昭				
編集機関	松江市教育委員会				
所在地	〒690-8540 島根県松江市末次町86番地 TEL (0852) 55-5284				
発行年月日	西暦2007年3月30日				
所収遺跡	史跡松江城		コード		
所在地	島根県松江市殿町		市町村	遺跡番号	
北緯	35° 28' 19"	東経	133° 3' 12"	32201	D241 (島根県遺跡番号)
事業期間	2001年1月～2006年7月				
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
松江城	城郭	江戸時代	天守閣 (現存) 櫓跡 石垣 濠	瓦 陶磁器類	

松江市文化財調査報告書 第111集

史跡松江城石垣修理報告書

(鳥取県西部地震災害復旧事業)

(保存修理一般事業)

2007年3月

発行 松江市教育委員会
松江市末次町86番地
印刷 渡部印刷株式会社
松江市中原町192番地